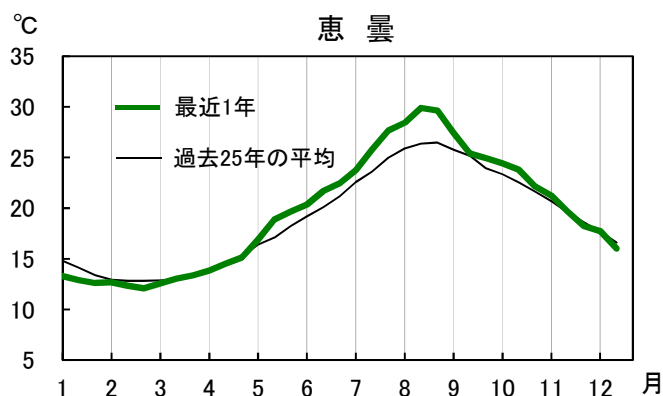
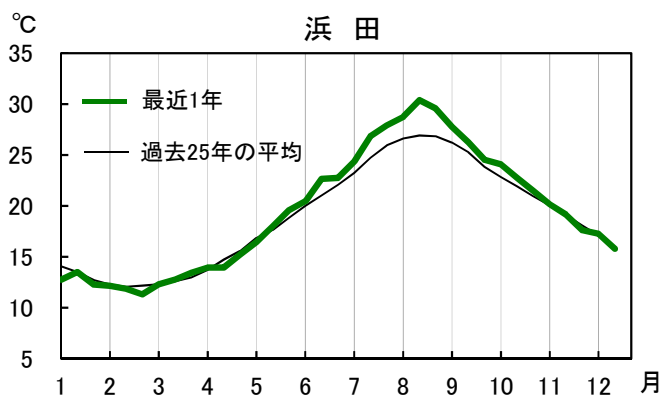




《11～12月の海況》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	18.8℃	-0.2℃	平年並み
恵曇	19.6℃	-0.1℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では11月は上・中旬は「平年並み」で、下旬に「やや低め」に転じましたが、12月に入り、中旬時点で「平年並み」で経過しています。一方、恵曇地区では11月は月上旬が「やや高め」、中旬が「平年並み」、下旬が「やや低め」と変動しました。12月は中旬時点で「平年並み～やや低め」で経過しています。



《11月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ、サワラ類主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。サワラ類は平年の3倍だったものの、例年主体となるマアジ、サバ類はそれぞれ3割、1割と大きく下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマイワシ、ウルメイワシ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を上回りました。特に主体であるマイワシ、ウルメイワシは、両地区ともそれぞれ平年の5倍、2倍となりました。また、例年主体となるサバ類は、僅かな水揚げに留まりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の96%）を主体にスルメイカ・アオリイカ・ソデイカ（3種で全体の4%）が混じる漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は84kgで平年を下回りました。一方、西郷地区（属人5トン以上）ではソデイカ（全体の85%）が主体で、ケンサキイカ（全体の15%）も漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は116kgで平年並みでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではソウハチ、ムシガレイ主体でした。1統1航海当たり漁獲量は、平年（過去10年平均）並みの水揚げとなりました。ソウハチは平年の2倍、キダイは平年の1.4倍の水揚げがあり、好調に推移しました。一方、ムシガレイ、アンコウは平年の8割の水揚げに留まり、低調に推移しました。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではマダラ、アナゴ類主体、久手地区ではマダラ、ニギス、アナゴ類主体の漁況でした。時化の影響で出漁日数が平年の5～7割程度に留まりました。1隻1航海当たりの漁獲量は、和江地区では平年の8割に留まりましたが、久手地区は平年をやや上回りました。アナゴ類、ヤリイカ、ニギスは両地区ともに好調で、特にアナゴ類は平年の2.3～3.5倍の水揚げがありました。一方、ソウハチは低調で、和江地区では平年の4割の水揚げに留まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではマアジ、サバ類、サワラ類主体の漁況で、1統当りではマアジ、サワラ類ともに平年の2倍だったものの、その他の魚種は平年並みか平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではブリ、サワラ類主体の漁況で、1統当りではブリ、サワラ類がそれぞれ平年の1.3倍、3倍、その他の魚種も概ね好調だったため全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではマアジ、サバ類主体の漁況で、1統当りではマアジ、サバ類がそれぞれ平年の2倍、6倍だったものの、カワハギ類、ブリ等例年主体となる魚種が平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

出雲地区ではブリ、サワラ類が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は29kgで平年を下回りました。石見地区ではシイラ、サワラ類、クロマグロ（ヨコワ）が主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は26kgで平年を下回りました。隠岐地区ではソデイカ、ケンサキイカ、ブリが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は23kgで平年を下回りました。

【平成 25 年 11 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ、サワラ類	213トン	57%	35%	15.2トン	73%	63%	▲
	西郷	マイワシ、ウルメイワシ、ブリ	8,083トン	162%	132%	164.9トン	192%	200%	◎
	浦郷	ウルメイワシ、マイワシ	2,840トン	108%	99%	81.1トン	130%	126%	◎
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	14トン	18%	16%	84kg	51%	45%	▲
	西郷	ソデイカ	3トン	15%	37%	116kg	90%	93%	○
沖合 底びき網	浜田	ソウハチ、ムシガレイ	326トン	102%	100%	14.2トン	111%	103%	○
小型 底びき網	久手	マダラ、ニギス、アナゴ類	115トン	60%	56%	912kg	103%	109%	◎
	和江	マダラ、アナゴ類	169トン	55%	51%	720kg	80%	77%	▲
定置網 (大型)	浜田	休漁							
	美保関	サワラ類、ブリ、マアジ	164トン	110%	126%	1.5トン	115%	130%	◎
	浦郷	サバ類、マアジ	14トン	91%	106%	524Kg	81%	96%	○
釣り・縄	仁摩	シイラ、クロマグロ(ヨコワ)	13トン	50%	45%	48kg	60%	87%	○
	大社	ブリ、シイラ	12トン	70%	56%	48kg	65%	97%	○
	西郷	ソデイカ	5トン	51%	36%	26kg	76%	76%	▲

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

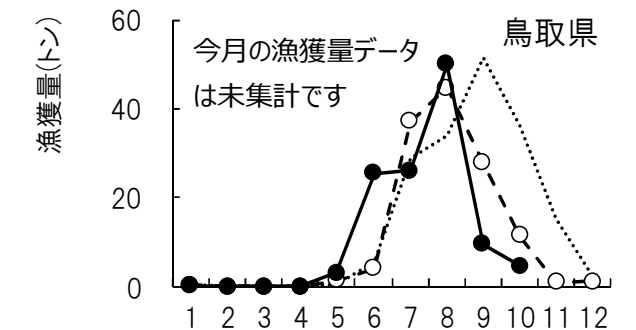
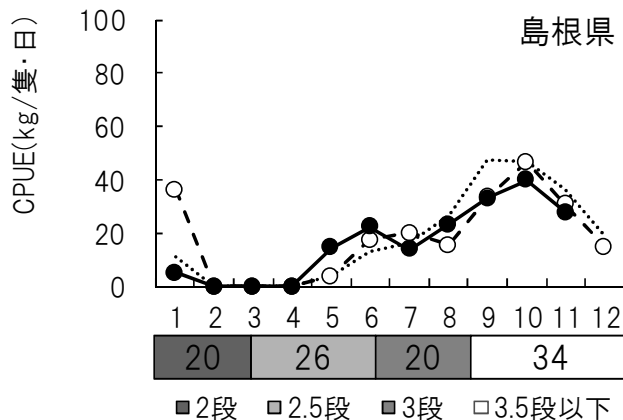
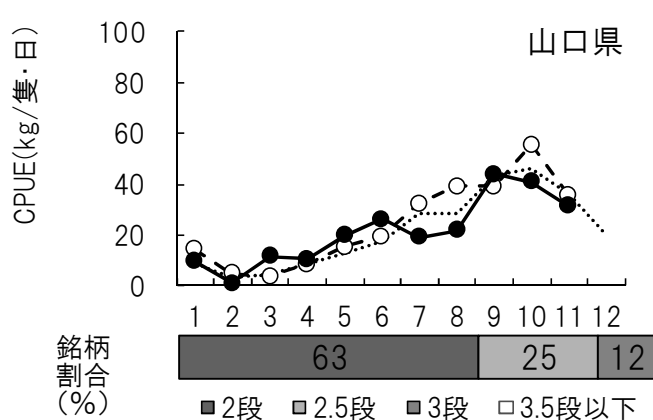
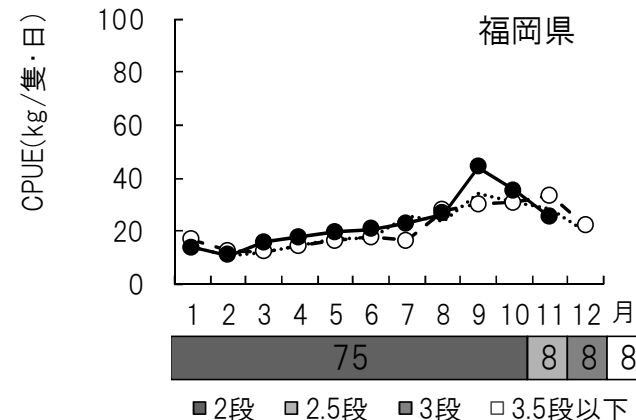
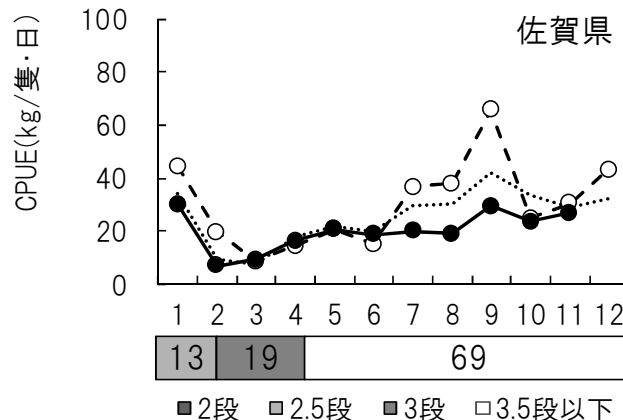
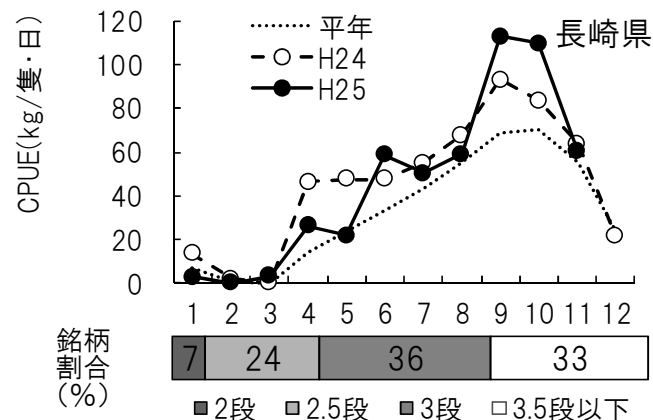
発行日：平成25年12月26日

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。ケンサキイカ情報は来月号から休止し、平成26年5月号から再開する予定です。

I：11月のイカ釣り漁況 これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

全般的に低調な漁況であったようです。各県の状況は以下のとおりです。

長崎県	標本漁協の漁獲量は、前年、平年を下回りました(前年比57%、平年比63%)。	佐賀県	標本漁港の漁獲量は前年を上回り、平年を下回りました(前年比179%、平年比57%)。	福岡県	11月はシケの影響で出漁隻数が前年比61%と少なかったため、代表港の漁獲量は前年比66%、平年比55%と前年・平年を下回りましたが、CPUEは前年比90%でした。
山口県	代表2港の漁獲量は前年・平年をかなり下回りました(前年比66%、平年比55%)。	島根県	主要7港の水揚量は27トンで、前年・平年を大きく下回りました(前年比19%、平年比16%)。	鳥取県	11月の漁獲量は未集計ですが、9月以降平年、前年の漁獲を大きく下回っており、11月も前年、平年を下回る見込みです。



※ 平年は過去5年(H20～H24)の平均値

Ⅱ：12月上旬の底層水温

長崎県	底層水温は、16～20℃台でした。	佐賀県	壱岐水道は17.6～19.6℃で平年並み、対馬東水道は16.4～19.0℃で平年並みからやや低めとなりました。	福岡県	沿岸域の水温は底層で16～18℃台と平年並みとなっています。沖合域の水温は、底層で17～19℃台とやや低めからやや高めとなっています。
山口県	底層水温は10～19℃で、冷水の出現域では平年より甚だ低め、それ以外は平年並みからやや低めでした。	島根県	今月は観測データがありません。	鳥取県	水深100m付近の底層水温は18℃前後でした。

今月の底層水温コンター図は、欠測点多数のため、ありません。